



鹿折まちづくり協議会防災への 取り組み

～だれ一人取り残さない防災を目指して～

宮城県気仙沼市鹿折まちづくり協議会
会長 熊谷 英明



1 団体の概要

宮城県気仙沼市鹿折地区は、2011年3月11日に発生した東日本大震災により壊滅的な被害を受けた地区の一つです。住民の多くが被災によって転居を余儀なくされ、被災した地区の自治会の休止・解散もあって、一時はコミュニティの維持が極めて困難な状況となりました。被災市街地復興土地地区画整理事業の策定にあたり、鹿折地区では住民の意見を集約し、行政と協議するための組織が必要となり、2012年10月に鹿折まちづくり協議会が設立されました。

鹿折まちづくり協議会は、設立当初は復興事業を中心に行政との調整や協議を行ってきましたが、復興事業に一定の目途が立ったことを転機に、復興後の地域課題である、「地域の賑わい」、「暮らしやすさ」、「防災」について考え、実践する団体として現在も活動を続けています。

2 東日本大震災を経験して 感じたこと

「自助・共助・公助」は災害に対する基本的な考え方ですが、行政等の支援（公助）は災害の規模が大きくなるほど地域に届きにくくなります。自分の身は自分で守り（自助）、近くの人たちや地域の人たちで力を合わせて助け合わなければいけない（共助）ということ、私たちは東日本大震災を経て痛切に感じました。このため、私たちは行政に支援を求めることと同じく

らい、私たち自身の手で災害に備え、助け合う体制を整えることを、防災活動において重視しています。

3 取り組み内容

①令和元年東日本台風の被害状況調査

令和元年東日本台風（令和元年台風19号）の影響で、鹿折地区一帯に冠水や土砂崩れ、河川の堤防決壊が発生したため、自治会と協力しながら全地区の被害状況調査を実施しました。収集した情報は報告書となり、行政や地域住民と内容を共有しました。これまで津波災害ばかりを考えていた私たちにとって、この活動は新たな自然災害に目を向ける契機となり、鹿折まちづくり協議会の防災への関わりの転換点となりました。



令和元年東日本台風の被害状況調査

②鹿折地区避難所開設訓練

鹿折地区で行っている防災訓練は、地域住民だけでなく、地区内に居住している外国人技能実習生も参加しています。外国人技能実習生は地理に不慣れな方が多いの

で、まずは最寄りの避難ビルに垂直避難をすること、そして訓練会場の中学校へ歩いて移動してもらい、実際の災害発生時にも安全かつ迅速に避難できるような訓練を体験してもらっています。



最寄りの避難ビルに垂直避難した海外技能実習生

中学校を会場とした避難所開設訓練は、平日昼間の災害発生を想定し、初動は中学生及び教員による避難所の開設を行い、地域住民と行政が順次駆け付けて避難者対応をするという工夫をしています。

訓練の経験を活かし、大きな地震の発生時には実際に避難所を開設し、避難者の受け入れも行いました。



中学校・地域住民とで一緒に避難所開設訓練

③防災まち点検

防災まち点検は、災害発生時に危険な箇所の確認や、防災資源の確認などの現地調査を行うことで地区の現状を把握し、安全な避難及び災害への備えを検討するための活動です。この調査には調査対象地区の住

民にも参加していただき、災害を自分事として捉え、自治区の防災について考えていただくことも目的としています。

また、子どもや親という若い世代にも防災意識を高めていただきたいという狙いから、防災だけでなく地域の歴史や自然を学びながら歩く防災ウォークラリーという企画も実施しました。



防災ウォークラリー チェックポイントでクイズを解きながら防災の知識を深める

4 今後の課題

今後の防災面における課題には、①災害時要支援者の避難支援、②ペットを連れた避難者の支援が挙げられます。

災害時に支援を要する方については、対象者を把握し、個別の避難計画の策定が必要と考えていますが、個人情報の兼ね合いもあり、完全な体制の確立には至っておりません。

ペットを連れた避難については、東日本大震災の頃にも、他の避難者に遠慮して車の中や被災した家屋内でペットと共に過ごす飼い主の方が多く、飼い主とペットと一緒に安心して避難できる環境について検討をしたいと思います。

防災の最終的な目標である「だれ一人取り残さない」を実現できる地域になるよう、私たちは今後も防災活動に力を入れてまいります。